

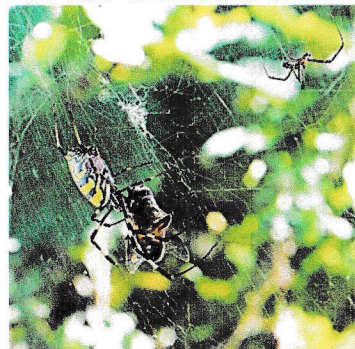
# ユリノキ 風の便り 61

2023 (令和5) /11/1.  
八千代市ゆりのき台 辻 秀幸

## 嫌われジョロ・ナガコ (節足動物クモ形綱クモ目)

船橋の「浜町公園」では、8月にナガコガネグモが現れる。10月になるとジョロウグモが見られるようになる。共に背中とは太さ違いのストライプ柄で、見分けるのは容易だが、通路を挟んだ南北どちらでも、なぜかお腹を見せて巣を張る。その場合、現場で見分けるのは困難だった。並べてみれば分かりやすいだろうと、両者の識別に挑んだ。

### メス・左列・ジョロウグモ (ジョロウグモ科)



↑ 2021/11/5. 船橋・浜町1.「浜町公園」

→ 2020/8/21. 船橋・浜町1.「浜町公園」 体長 11 mm

### メス・右列・ナガコガネグモ (コガネグモ科)



左写真で右上の小さいのがオス、と確信。ジョロウグモの巣は一見乱雑。右のようにジグザクの「かくれ帯」を張り、巣に触れると揺すりかえすのがナガコガネグモの特徴。かくれ帯は無いことも少なくない。

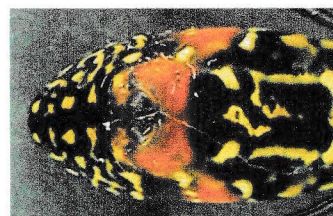


背側

← 2021/10/11. 13. 船橋・浜町1. 体長 17 mm  
→ 2020/8/24. 船橋・浜町1. 「浜町公園」 体長 15 mm



腹側で見分けるポイントの一つが、お尻近くにある丸いもの。赤帯がはっきりしていればジョロウグモ、そうでないのがナガコガネグモと判断することにした。丸いのは出糸突起 (しゅっしとつき。糸床) という蜘蛛の糸の製造場所。



出糸突起

← 2019/11/9. 「浜町公園」 体長 19 mm  
→ 2018/8/3. 「浜町公園」 体長 15 mm



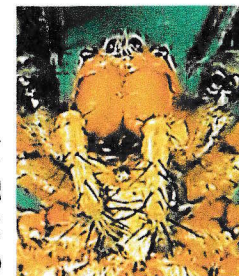
## メス・ジョロウグモ

顔のクローズアップ。目は4個あるように見えるが全部で8個。その下の大きなのが上顎。これと牙 (下顎) を使って餌に食い付き消化液を注入し液にして食す。その脇の足のような物は触肢。昆虫の触角の働きをする。



← 2017/10/12. 「浜町公園」 体長 25 mm

→ 2020/8/24. 「浜町公園」 体長 15 mm



人の背の高さほどの所に網を張って虫が掛かるのを静かに待ちます。触れてもセアカゴケグモのようなことにはなりません。好戦的ではないので噛みついてきたりもしません。安心して穏やかな心で見つめ合しましょう。

## オス・左列・ジョロウグモ

オスについて両者の識別は私には不可能。図鑑では大きな写真はメス。写ってます程度の小さい写真がオス。では、とメスのそばに居るのが同類のオスに違いあるまいと確保し、比べてみたのが下写真。種を維持するのは大ごとらしい。オスがうかつにメスに近づくと、餌と認識されて食べられてしまうという。目的を果たす前だと種の存亡が危うくなって不利な習性のように思えるが、絶滅危惧種にはなっていないようなので、なにか有利なこととか絶妙な仕組みがあるのだろう。撮影は、ご覧の通り私にゃ無理難題。



2021/10/24. 「浜町公園」 体長 8 mm



背側

腹側

オスはずっとほぼこの姿。メスは現れた時は似た姿だが、やがて大きく、「太っ腹」の

2022/8/6. 「浜町公園」 体長 7 mm



おなじみの容姿となる。

全身・背側

